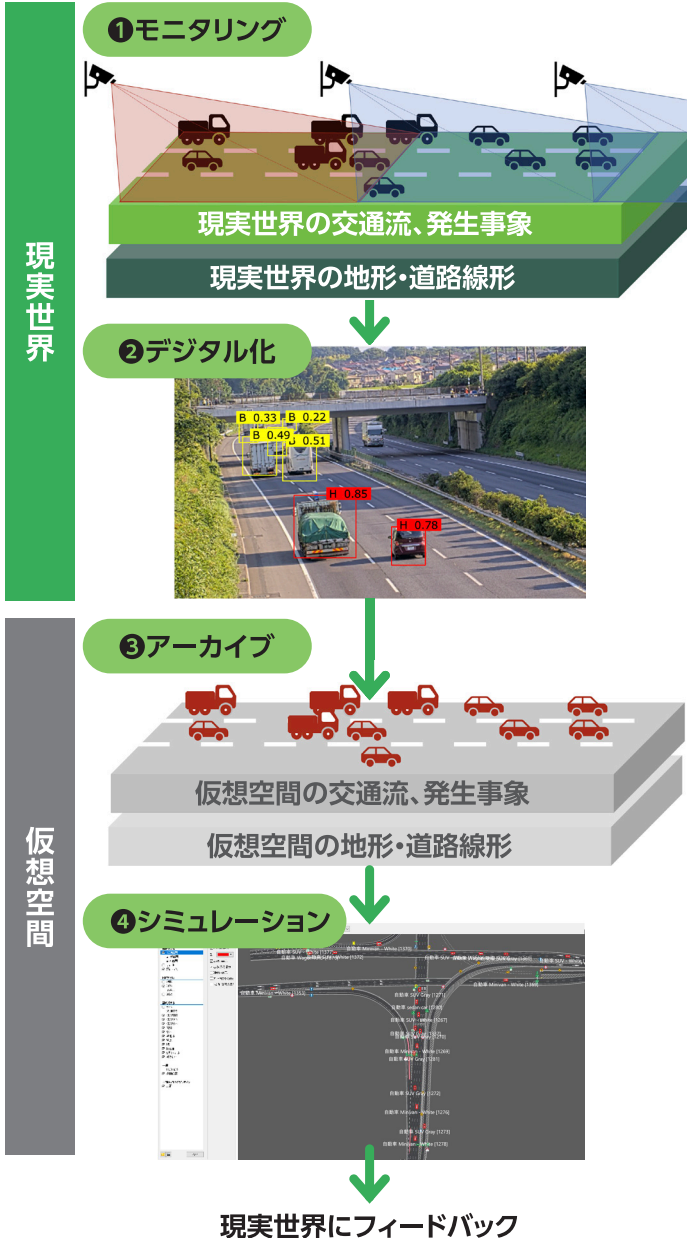


moVision プロジェクト

重点プロジェクト ⑤ : moVision 版デジタルツイン

moVision 版デジタルツインとは、現実世界の高速道路や交通流、発生事象などをモニタリング・デジタル化、統合・蓄積（アーカイブ）し、仮想空間上で再現・可視化することによって様々な条件や用途に応じたシミュレーションを行い、それらの結果を現実世界にフィードバックするための情報基盤（データプラットフォーム）です。

「次世代高速道路の実現に向けた実証実験」で設置する多機能ポールや画像解析 AI、次世代ハイウェイラジオ（E-ハイラジ）などとシームレスに連携し、NEXCO 東日本が目指す高度なモビリティサービスの提供につなげていきます。



【想定している主な機能と特徴】

多機能ポールに設置した可視光カメラや遠赤外線カメラなどを用いて、現実世界の高速道路の交通流や発生事象を日中・夜間、気象条件を問わず切れ目なくモニタリングする。

画像解析 AIなどを用いて、モニタリング結果をリアルタイム解析し、車両1台1台の走行軌跡や速度、車種や発生事象等のデジタルデータを自動作成する。

高速道路の地形・道路線形・交通流や事故・落下物・渋滞などの発生事象のデジタルデータを統合・蓄積し、VR 技術等を用いて仮想空間上で再現、可視化する。

数理解析モデルを用いて、将来の交通流を算出し、近未来の渋滞や事故のリスク等を予測する。予測した結果を次世代ハイウェイラジオ（E-ハイラジ）やコネクテッドカー・自動運転車との路車間通信により、情報として現実世界にフィードバックする。

moVision版デジタルツインの目指すイメージ



「自動運転社会の実現を加速させる
次世代高速道路の目指す姿（構想）」

詳しい情報はコチラ⇒

